

第2回宗像国際環境100人会議

人類はある時には自然の恵みに感謝し、ある時には畏怖の念で自然と接してきました。

日本人も古来から自然を敬ってきました。

自然を痛めつけてきた現代の環境問題を解決する為にどのような価値観の転換、回帰が求められるのか？

「宗像国際環境100人会議」は、古来国際交流の拠点として栄えた福岡県宗像市において、地球環境保全と次世代の人材育成を目的として毎年開催されるものです。

会議には、自然科学者、社会科学者、人文科学者、国際機関関係者、企業家、金融機関関係者、国や自治体関係者、市民活動家、文化人など地球環境保全の為に活躍するリーダー達に加え、未来を担う大学生が招集され、国や分野、世代を超えて、地球環境問題の解決策を協議します。地球が抱える問題を理解し議論し合うだけでなく、いかにして実(じつ)に繋がる行動に移す事ができるのか。青少年の知識と関心を高め、未来の国際人を育成しながら、地球市民として何ができるのか。有識者・企業人・学生が一体となって考えます。

2015
テーマ
海と生きる
～海と森との共生～

2015.5.22 金, 23 土, 24 日

美しい海には、豊かな森の存在が欠かせません。自然豊かな森がある栄養豊富な土地の河口では、健康な貝や魚が命を育み多くの恵みを我々に与えてくれています。海と森、一見、対照的なものと思いがちなこの二つは、お互いに関係し合いながら、繋がって存在しているのです。

地球自体が生き物だと言われます。地球の海と森を別々のものとして考えるのではなく、総合的に関連付けて考えることが、地球環境の新たな展開を模索する上で非常に重要なことでしょう。

海と森、そしてそこに生きる生命との繊細でダイナミックな関係を学び、自然の大切さを認識するとともに、豊かな地球を守る活動を構想していきます。

22 13:30～16:25 プレナリー『環境と科学と文化』
(金) 大学生プロジェクト
18:00～21:30 オープニングパーティー
『うみやまあひだ』鑑賞
会場:オテルグレイージュ

23 9:30～17:20 ビデオメッセージ
(土) My Life, My Message
環境事業特別セッション
プレナリー「人間と自然の共生」
テーブルディスカッション
会場:日本赤十字九州国際看護大学

18:30～21:00 開催記念パーティー
会場:ぶどうの樹海岸通り マルマーレ

24 9:30～17:40 テーブルディスカッション
(日) 特別討論会、対談
会場:日本赤十字九州国際看護大学

13:30～17:30 市民向け講演会
会場:宗像ユリックス

18:30～20:30 クロージングパーティー
会場:ぶどうの樹 ゆかいな果樹園

主催: 宗像国際環境100人会議実行委員会、UBrainTV 株式会社 共催: 宗像市、宗像市教育委員会
後援: 環境省、福岡県、WWF Japan、東京大学大気海洋研究所、United Brain Networks Ltd.

※会場、スケジュールの内容は変更する場合がありますので、ご了承ください。



宗像国際育成プログラム

MUNAKATA International Education Programme

宗像国際環境100人会議では、未来の国際人を育てるため、中学生を対象とした「宗像国際育成プログラム」を実施しています。2014年度は、宗像市から

30人の中学生を選抜し、日本・世界のトップクラスの研究者や企業人が講師となって年8回、特別レクチャーを実施しています。青少年の知識や興味、関心を広げ、国際人としてのモチベーションを高めるとともに、このプログラムを通して多様な文化、価値観を受容し、国際的な視野を持った豊かな人材を育てます。



お問合せ 『宗像国際環境100人会議実行委員会』事務局

名古屋市千区那古野1丁目47-1 名古屋国際センタービル24F

Tel: 052-561-0002 Fax: 052-561-0122 E-mail: info@munakata-eco100.com

または 宗像市役所 秘書政策課 Tel: 0940-36-1055

● HPにスケジュールを随時更新 www.munakata-eco100.com

会議の様子を配信中!



www.ubraintv-jp.com

共同議長



ノーベル平和賞受賞者
東ティモール民主共和国
前大統領

José Ramos-Horta
ジョゼ・ラモス＝ホルタ

1993年にトロロフ・ラフト人権賞、1995年にグライツマン賞を受賞。1996年「東ティモールにおける紛争の正当で平和的な解決への尽力」を評価され、ペロ司教とともにノーベル平和賞受賞。ダライ・ラマなど歴代ノーベル平和賞受賞者に対し、地域紛争調停のための組織設立を呼びかけている。2014年6月まで、国連のアフリカ西部ギニアビサウ問題を担当する事務総長特別代表を務めた。現在は、国連に新設された国連平和活動パネルの議長を務めている。



UNESCO Intergovernmental
Oceanographic
Commission (IOC) 議長

Sang-Kyung Byun
サン・キュン・ビュン

ソウル国立大学卒(海洋学)、仏ブルターニュ・オクシダントル大学にて修士課程および博士課程を修了(1980年)。米ウッズホール海洋研究所に客員研究員として1年間勤務した後、韓国に帰国、韓国海洋研究所長(2002～2005年)、韓国海洋科学委員会議長(2004～2006年)、韓国海洋学会会長(2006～2007年)、ユネスコ政府間海洋科学委員会副議長(2009～2011年)などの要職を歴任。現在、韓国海洋科学技術院の名誉主任研究員。

共同理事長



東京理科大学教授
東京大学名誉教授
国連科学諮問委員会委員

黒田 玲子

1970年お茶の水女子大学理学部化学科卒、75年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了(理学博士)。ロンドン大学客員講師などを経て、現在東京大学名誉教授・東京理科大学教授。1993年猿橋賞受賞。2000年より、森・小泉・安倍内閣で総合科学技術会議議員、教育改革国民会議委員を務める。

専門は、化学、生物化学、生物物理学で自然界に広く現れる左右性(キラリティー)について長年に渡り研究を続ける。2013年ロレアル・ユネスコ女性科学賞受賞。国際科学会議(ICSU)元副会長。2013年10月、「国連科学諮問委員会」の委員に選出された。また2014年にはTWAS(科学振興のための世界科学アカデミー)のフェローに選ばれている。



法政大学名誉教授
国連大学サステナビリティ
高等研究所客員教授

鈴木 佑司

1971年東京大学大学院法学・政治学研究科国際政治学専攻修士課程修了。法政大学名誉教授。専門は国際政治学で特にアジア・太平洋の国際政治の研究をしている。世界ユネスコ協会連盟元会長。東南アジア関係の数多くの国際会議に招待され、大臣次官クラスと討論するなど、この分野を牽引する研究者である。

1980年マレーシア研究でマレーシア文部大臣研究奨励賞、世界ユネスコ協会連盟会長就任で1996年文部大臣功労賞などを受賞している。2015年より、国連大学サステナビリティ高等研究所客員教授を務める。

専務理事



三重大学名誉教授
WWFジャパン評議員

目崎 茂和

琉球大学、南山大学などを経て、三重大学名誉教授、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)評議員を務める。1945年生まれ。東京浅草育ち、東京教育大学大学院卒。環境学・地理学の立場から世界各地のサンゴ礁の調査研究と保全活動を実施。また自然環境を生かした「地域づくり」に参画、環境問題・地域政策などで国や三重県の各種委員を務めている。



常務理事／事務局長

三重大学教授、副学長

児玉 克哉

広島大学総合科学部大学院修士課程を修了後、スウェーデン・ルンド大学に留学。社会学博士号を取得。国際社会科学評議会副会長、国際平和研究学会事務局長などを歴任。現在、三重大学副学長・地域イノベーション学研究科教授。専門は地域社会学、市民社会論、NGO論、国際平和論、マーケティング調査など。核兵器廃絶へのプロセスをうたう「ヒロシマ・ナガサキプロセス」を提案し、世界的な運動を繰り広げている。2012年にインドの非暴力国際平和協会より非暴力国際平和賞を受賞。

理事

- 谷井 博美 宗像市長
- 葦津 敬之 宗像大社権宮司
- 御園 慎一郎 愛知東邦大学教授
- 佐藤 典子 環太平洋大学特任教授
- 羽生田 栄一 UBrainTV 株式会社 代表取締役CEO
- 西川 右近 日本舞踊 西川流三世家元



常務理事／福岡事務所長

(一社)九州のムラ代表理事
ニッポンのムラ編集長

養父 信夫